

付宜紅 著

日本語文 教育研究

- (1) みんなでんぼうで、たれかがあわれにな、ても、
めくんでやれないくらゐ、ますしい。

ごんは兵十と加助の話聞いた後、ひきあわないなあと思ったにも関わらず、その明くる日に、またくりを兵十のところへ持っていっています。そのことに對して、あなたはどう思いますか。

や、はり、うなぎを取、てしま、たのだから、
つく、ないをしなけれは、いけない、と思う
気持ちか、わかつ、ごんは、やさしいのだな、と思った。

ごんが死ぬ前に、兵十に何か言いたいことがありますか、あったら、想像して書いて下さい。なかったら、わけを書いて下さい。

うなぎを取、てしま、て
ごめんなさい。

ごんは兵十に撃ち殺されるという悲劇について、あなたは思うか、何を考えたか。

兵十は、すぐにごんがなにをしにきたか、
調べた方がよか、たと思う。

北京師範大學出版社

この物語を読むのが好きですか。

①好き

②まあまあ好き

③あまり好きではない

④好きではない

日本语文 教育研究

（一） 日本文学教育の現状と今後の展望について
（二） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（三） 日本文学教育の現状と今後の展望について
（四） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（五） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（六） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（七） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（八） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（九） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（十） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（十一） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（十二） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（十三） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（十四） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（十五） 日本文学教育の現状と今後の展望について

（十六） 日本文学教育の現状と今後の展望について

日本语文教育研究

付宜红著

北京师范大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本文语教育研究/付宜红著. —北京:北京师范大学出版社, 2003. 9

ISBN 7-303-06526-1

I. 日… II. 付… III. 日语-教学研究 IV. H369

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 084145 号

北京师范大学出版社出版发行

(北京新街口外大街 19 号 邮政编码:100875)

出版人:赖德胜

北京师范大学印刷厂印刷 全国新华书店经销

开本:850mm×1168mm 1/32 印张:10.5 字数:252 千字

2003 年 9 月第 1 版 2003 年 9 月第 1 次印刷

印数:1~2 000 册 定价:13.50 元



●导师森楸(中) 1995年6月

导师大槻和夫(前排左三) 1999年2月 ●



●导师山元隆春(左三)
2000年3月





作者(中)作为特邀代表出席语文教育国际研讨会并做专题报告 ●

2000年6月



● 体验茶道 (左三为作者)

1999年1月

● 导师吉田裕久 (左)

2001年1月



听说教材《街上来了一只大河马》
《教育图书》2002 四·上 P1-2)



か り い に み
る の た く
きの 類
といッ
たんに
うわあ
ととなり

ごんぎつね

自分で選んで

これは、わたしたちの村の近く、中山といふ所に、小さなおしろがあつて、中山
昔は、わたしたちの村の近くの中山といふ所に、小さなおしろがあつて、中山
といふおとこの様がおられたそうす。

その中山から少しはなれた山の中に、「ごんきやね」といふきやねがいました。
ごんは、ひとりばちの小さきつねで、わたしのいっばいしげな森の中に、あなをほ

新美南吉作
かすや 昌宏 絵

[illegible]

文学教材《小狐狸昆儿的故事》
(《光村图书》2002 四·下 P62)

ほうを選んで学習しましょう。新聞やポスターを作つてはいかがでした。もうに思つたことを調べたり、今までの学習を生かして取り組んでください。

序——『日本国語教育研究』に寄せて

付宜紅さんは、1995年1月から2001年3月まで、日本国立広島大学大学院教育学研究科（博士課程）において、日中国語教育の比較という視点で日本の国語教育に関する研究に精力的に取り組み、短い期間でありながら実に大きな成果を挙げました。その集大成とも言えるのが、本書の基礎ともなりました、広島大学に提出した学位論文『日中国語教育の比較研究—小学校物語文の学習指導を中心に—』（2001年1月）です。この学位論文は、付宜紅さんが来日前に中国人民教育出版社において国語教科書編集者として活躍していたことがよく生かされ、また日本での寸暇を惜しんでの精力的な研究が実を結んだものです。この学位論文に対して、論文審査委員会はもちろん、学位を承認する研究科委員会においても全員一致の高い評価が得られ、付宜紅さんに教育学博士の学位が授与されました。

広島大学大学院を優秀な成績で修了され、帰国された付宜紅さんは、その後も継続して熱心に研究を進め、博士論文をもとにしながら、新しい資料を含めて論文を改稿し、『日本国語教育研究』という本書を完成させました。本書において、付宜紅さんの日本の国語教育に対する理解はさらに豊かに、そして深くなっています。また文献研究だけでなく、6年間、実際に体験した日本の国語教育を素直に記載されています。第三者の客観的な立場から日本の国語教育を観察し、独自の分析・考察が行われています。こうして成った本書は、日本の国語教育研究者にも貴重な先行研究になると思います。

この「日中国語教育の比較研究」という難しい研究テーマに取り組んだのは付宜紅さんが初めてです。本書にも収められた「学習効果調査—日中両国における子供の読みの反応」は、全国大学国語教育学会が学会発足五十周年を記念して編集した『国語教育学研究の成果と展望』（2002年5月、明治図書）においても、「新しい研究分野に、文学的文章の比較実践研究がある。外国の国語教育については、比較国語教育研究の分野でかなり進められてきた。ただ、文学的文章の比較実践研究となると、まだほとんど見られない。付宜紅（2000）の研究はその先駆的な試みである。」（p. 275）と、極めて高い評価が与えられています。

大学院在学中から付宜紅さんは、研究に対して労力と時間を惜しまず、意欲的に学会で研究発表するとともに、学術論文の執筆も精力的に行いました。特に、全国大学国語教育学会、日本教科教育学会、日本国語教育学会、中国四国教育学会などの学会誌の審査（レフェリー）論文としてたびたび掲載されるなど、その研究資質・能力が極めて高いことが広く認められています。付宜紅さんの論文は、優れた論文を集成・保存している論説資料保存会の『中国関係論説資料』にも二年連続で採録されていますし、多くの研究者の著書・論文にも広く引用されています。そして、こうした栄誉は今後も続くものと思われます。付宜紅さんは、こうして日本と中国の両国の国語教育を語るができる得難い優れた研究者です。現在のところ、こうしたことができるのは付宜紅さん以外に求めることができません。その証として、付宜紅さんは、「国語教育国際フォーラム」（日本国語教育学会、2000年6月）にもゲストスピーカーとして選ばれています。

広島大学大学院在学中の付宜紅さんは、温和で、人に優しく、何事にも真面目に取り組むため、大学院の学生仲間から慕われ、尊敬されていました。また、研究室の教授全員も付宜紅さんを礼儀正しい、勤勉な学生として高く評価していました。さらに付宜紅さんは勤勉で、授業にはすべて出席して進んで研究発表するとともに、仲間の発表にもじっくりと耳を傾け、意欲的・積極的に研究しました。日本人学生にとっても、学生として模範的な役割を果たしました。このように秀逸な研究能力、高潔な人格の持ち主である付宜紅さんは、すでに大学院の学生時代から大きな期待がかけられていました。私は付宜紅さんの大学院時代の指導教官として、付宜紅さんが、今後、必ず優秀な研究者・教育者として、広く学界・学会に歓迎されることと確信しています。そして本書『日本国語教育研究』が、今後の日中国語教育界の架橋として、相互理解と交流の役割を立派に果たしてくれることを確信しています。

広島大学大学院教育学研究科教授
全国大学国語教育学会常任理事

吉田 裕 久 

序（译稿）

付宜红同学自1995年1月至2001年3月，在日本国立广岛大学大学院教育学研究科（博士课程）学习期间，从中日两国语文教育比较的角度，对日本的国语教育展开了系统的研究，在较短的时间内取得了较大的研究成果。其研究成果的集大成，也是本书的基础，是她向广岛大学提交的学位论文《日中国语教育比较研究》（2001年1月）。论文中很好地吸收了她来日本之前在中国人民教育出版社担任小学语文教科书编写工作之经验，囊括了几年来她对日本国语教育进行的一点一滴的细致、深入的研究成果。对于这部学术论著，论文审查委员会的全体审查委员，以及研究科学学位审查的全体委员都一致地给予了极高的评价，并同意授予付宜红同学以教育学博士学位称号。

她在广岛大学大学院取得优异成绩，毕业回国后，仍不断努力，继续从事研究。在其博士论文的基础上，根据最新资料重新整理、编撰了这本《日本语文教育研究》。书中可以看出她对日本国语教育的理解和认识更加丰富、深入。更可贵的是她的研究不局限于固有的文献，而是实实在在地记录了6年来对日本国语教育的实际体验与感受，从一个第三者的客观的角度对日本国语教育进行观察，并展开独特的剖析。因此，此书对日本的国语教育研究者来说也是非常宝贵的先行研究资料。

选取从事《日中国语教育比较研究》这一项应该说是较难的研究课题，在目前的日本国语教育界付宜红同学应属首位。这部著作中关于《日中两国儿童阅读反应调查研究》部分被收入到日本全国大学国语教育学会为纪念学会成立50周年而编辑

出版的《国语教育学研究的成果与展望》（2002年5月，明治图书）一书，书中还特意为此作出如下极高的评价：

“作为崭新的研究领域，出现了有关文学教材的比较研究。（战后五十年来，我国的研究者）在外国语教育研究领域上有了一定的进展，只是，在文学教育上的比较研究，还从未有过一例。因此，付宜红博士的研究（2000年）可以说是这方面的先驱。”（第275页）

在大学院学习时的付宜红同学，在研究上投入了极大的精力与时间，除积极主动地参加各种学会，并在学会上发表研究进展报告，还同时撰写了大量的学术论文，分别在“全国大学国语教育学会”、“日本教科教育学会”、“日本国语教育学会”、“中国四国教育学会”等学会会刊上发表，其研究能力与质量被广泛认可。日本专门收集、保存优秀论文的“论说资料保存会”的《有关中国论说资料》一书中，曾连续两年收录了付宜红的一些研究成果。至今为止，她的文章已在很多的研究者的论文中被引用，预计在今后相当长的一段时期内还将有着深远的影响。作为能够同时精通中日两国语文教育的难得的人才和优秀的研究者，在当前日本还很难找到第二位，为此，她曾被邀请在日本国语教育国际研讨会（2000年6月）上作为特邀演讲人作了专题报告。

在广岛大学学习期间的付宜红同学，为人温和、友善，对任何事都极其认真、投入，因此赢得了大学院（研究生院）同学的爱戴与尊敬，院里全体教授也一致给予了她“注重礼仪，勤奋刻苦”的很高评价。学习期间，她从未有过一次缺席，在不断着手、勤奋钻研自己的研究的同时，也积极、主动关注其他人的研究，给日本学生树立了很好的榜样。

作为付宜红同学的指导教官，我对她的研究能力和高尚的人格，从她在攻读硕士研究生期间，就充满了极大的期待。我

坚信今后她作为优秀的研究与教育工作者，一定能够更为广泛地受到学术界的欢迎。更相信此书能成为中日两国语文教育界之间的一座桥梁，为增进中日两国语文教育界的相互理解和沟通起到良好的推动作用。

广岛大学大学院教育学研究科教授
全国大学国語教育学会常任理事

吉田裕久
2003 年 5 月

作者的话

1996年，教育部基础教育司开始着手酝酿我国的第八次课程改革。那一年，正是笔者在日本广岛大学教育学部结束了为期一年的研修，考取广岛大学学校教育学部言语教育学系研究生之年。闻之国内正在准备进行的课程改革，我开始把更多的关注放在日本的课程、教材、教法，特别是促使战后日本走向教育民主化的历次改革。1997年寒假，笔者利用春节回家探亲的机会，有幸参加了一次课程改革工作组核心成员的工作会议。记得那是一个星期六的早上，8:30分，我准时来到北京师范大学一间不大的会议室。参加会议的人员有七八人，在此次会议上，我有幸接触了直接组织中国这次改革的几位核心人员，记得当时有现任教育部基础教育司副司长朱慕菊，基础教育司课程发展处处长沈白榆，以及现任教育部基础教育课程教材发展中心主任助理的刘坚等同志。从半天会议的讨论中，我明白了他们在苦苦追求、努力的，是怎样把我国的基础教育课程带向一条求真、务实、回归人性的民主、科学、开放的阳关大道，这和自己在日留学期间无数次思索、困扰过的想法不谋而合。他们对教育改革的执着、热情和对先进的教育理念的追求深深地感动着我，使我坚定了系统研究日本课程、教材、教法，为祖国的课程改革贡献一份力量的决心和信念。由于自己的学科出身是语文教育，所以我决定以语文学科为载体，深入探讨其课程、教材、教法三者之间的关系，及其对学生实际学习的影响，特别是对学生价值判断、人生观形成等的影响。于是，我确立了《中日语文教育比较》这一研究课题。由于课题内容涉

及听说读写各个领域，从课程到教科书、教材，再到教法，到两国学生实际学习状况、效果调查、比较剖析……且这一领域的比较研究在日本尚属空白，因此，课题获得了日本文部省经费补助的支持。一晃，从硕士到博士，研究持续了5年时间。

这5年里，我国的基础教育课程改革在紧锣密鼓研制，稳步推进。我欣喜地看到：

1999年，在第三次全国教育工作会议上，国务院批转了《面向21世纪教育振兴行动计划》，正式提出了改革现行基础教育课程体系，研制和构建面向新世纪的基础教育课程教材体系的任务。我还看到基础教育课程改革被确立为国家重大项目，并获得国家一级财政专款资助。无数次科学的调研、研讨，课程改革逐步明晰了六大改革目标，提出一系列系统的改革措施。

2001年3月，我的历时6年的留生活顺利结束，3月25日，在广岛大学毕业典礼的仪式上，如愿接过了教育学博士学位证书；

2001年5月，笔者来到教育部基础教育司课程发展处，参与基础教育课程改革实验的启动准备工作。

2001年6月1日，国务院召开全国基础教育工作会议，正式颁布了《关于基础教育改革与发展的决定》，明确提出“加快构建符合基础教育要求的新的基础教育课程体系”，并把这项工作作为“深化教育教学改革，扎实推进素质教育”的核心内容，同时下发《基础教育课程改革纲要（试行）》和《关于开展基础教育新课程实验推广工作的意见》，我国基础教育课程改革实验正式启动。

2001年11月，笔者来到基础教育课程教材发展中心课程处，全面正式投入到参与课程改革实验的组织与研究等工作中。

我的研究生生活伴随着我国基础教育课程改革的研制与诞生。几年来，特别是在直接参与有关课程改革实验的工作中，我一

直有一个最大的心愿就是把我的研究成果，把自己在日本走过的无数学校，听过的无数节课，搜集到的无数案例、资料全部整理、翻译出来，贡献给我们的广大研究者和实验区。

感谢北京师范大学的全力支持，使今天这本集子得以问世。由于时间、精力和篇幅所限，这里仅截取在日研究中的一部分内容，并且着重精选有关日本方面的内容，因此，书名也从原课题名《中日语文教育比较研究》改为《日本语文教育研究》，为的是使本书更具针对性。同时，由于本研究时间跨度较大，在笔者完成论文毕业回国后的第二年，即2002年4月，日本又开始实施了新一轮的课程改革。为使本书内容更具有实效性，原课题研究中涉及到的课程、教科书、教材内容等，全部对照新课程、新教材进行了重新核对与调整。仅以此书献给我国广大语文教育工作者、课程与教学研究者，特别是广大实验区教师、教研员。

2003年5月

目 录

序	(1)
序 (译稿)	(1)
作者的话	(1)
序 章	(1)
第一节 研究的背景及意义	(1)
第二节 研究的目的及方法	(5)
第一章 教育课程	
——日本国语课程的昨天与今天	(8)
第一节 战后日本国语课程的变迁与发展	(8)
第二节 中日语文课程发展比较中的思考	(19)
第三节 现行日本《学习指导要领·国语》的内容及特点	(22)
第二章 教科书与教材	
——感受时代感与多样化	(31)
第一节 编辑方针与选文依据	(31)
第二节 教材内容	(42)
第三节 单元类型及编排体例	(59)
第三章 教学实践与指导	
——开放、灵活、有个性的教学	(74)
第一节 听说教学的实践与指导	(74)
第二节 写作教学的实践与指导	(87)
第三节 阅读教学的实践与指导	(108)